



- 2. Mr. Makoto Kaminaka
- 3. Mr. Prof. Kozo Obara
- 4. Mr. Katsuya Tokurei
- 5. Mr. Masaharu Ogawa
- 7. Mr.
- 8. Mr.
- 9. Ms.
- 10. Mr.

▲デポック市第10中学校にて



本年2月にインドネシアのデポック市長など関係者19名が本町を訪れて、国際交流に関する覚書を締結したことを受け、今回、具体的な意見交換を行うために、同市を訪問しました。今回の訪問で人材交流と国際交流の推進、エネルギー教育やゴミなどの環境問題の解決について協力関係を発展させることをお互いに確認しました。

デポック市の課題は、廃棄物処理施設が十分に整備されていないこととゴミを分別するシステムが確立していないことです。

訪問団一行は、これまで本町の児童等と交流のあったデポック市第10中学校やゴミの埋立処分場などを視察しました。

デポック市長は、「デポック市の環境問題を解決するためには、教育、経済、技術、人材交流事業について大崎町の協力が必要である。」と述べ、一方、町長は、「様々なレベルで教育・産業技術の交流を行い、デポック市の環境改善や地域活性化に取り組んでいきたい。」と述べました。

▲歓迎の様子（デポック市）



▲空き缶を利用して作った第10中学校のラボステーション

▲訪問記念プレートにサインした町長

▲東靖弘町長とヌールデポック市長



▲金型工場での日本ハードウェア(株)小川社長

▲歓迎の様子（デポック市）

▲ゴミの埋立処分場



▲町長とバリ州知事

▲バリ州知事と(有)そおりサイク

▲ビナス大学との打ち合わせ風景

ルセンターの宮地社長

国際交流 in インドネシア

9月24日から29日にかけて、廃棄物処理問題について協議するため、東靖弘町長をはじめ大崎ものづくりネットワーク振興会の上中会長などがインドネシアのバリ州とデポック市を訪問しました。

【デポック市】

インドネシアの西ジャワ州の都市であり、ジャカルタ首都部特別州に隣接する。

人口約170万人、面積200.29k㎡。

本町の2倍の面積に対し、人口は100倍以上。